

# 審議会等の会議結果報告書

課所名

高齢者福祉課

会議名

令和5年度第2回諏訪市高齢者福祉計画・介護保険事業計画推進委員会

開催日時

令和6年1月22日(月) 13時30分 ~ 14時50分

開催場所

諏訪市役所 201会議室

出席者

(出席者) (敬称略)  
推進委員会  
委員長 松本宙明  
副委員長 宮澤裕子  
委員 正田行穂 藤森和良 飯田浩一 今村貴保 沖島太郎 神永記男 池上さゆり  
清水俊英 宮坂正義  
事務局 健康福祉部長 守屋和則  
高齢者福祉課長 宮坂吉郎  
高齢者福祉係長 小口隆 同係主査 両角あずさ 矢花之宏  
策定業務委託 株式会社ぎょうせい 山岸誉 平野隆大

資料

第2回諏訪市高齢者福祉計画・介護保険事業計画推進委員会～次第～  
高齢者福祉計画・介護保険事業計画(素案)について【事前送付資料】  
パブリックコメントの募集について【資料1】

協議議題(内容)及び会議結果

1 開会  
(宮坂課長)

2 あいさつ  
(守屋部長)

国の社会保障審議会の進捗が遅れ、このタイミングでの委員会開催。今回はパブリックコメントに向けた大切な会議。

本計画の計画期間には、2025年問題が含まれる。少子高齢化の進展に伴う担い手不足、地域社会の機能や世帯構造、生活の変化等の課題を踏まえ、地域社会全体として、見守りを始めとする支え合い、助け合い、インフォーマルサービスの充実、異業種の連携などが大変重要となる。皆様には、ご意見、慎重なご審議をお願いしたい。

3 協議事項(委員長進行)

(1) 高齢者福祉計画・介護保険事業計画(素案)について  
(事務局)

・事前配布資料「高齢者福祉計画・介護保険事業計画(素案)」に基づき説明

提言・意見について  
(委員長)

計画の素案に、さらに用語解説と第9期介護保険事業計画が盛り込まれ、諏訪市高

高齢者福祉計画の冊子は厚みを増している。それだけ課題が増えている。  
計画の素案の内容について、各委員の立場から何かご意見があれば伺いたい。

(委員)

諏訪市を「以下、本市という」となっているが、諏訪市としたほうが良い。人口の合計の記載と、区分別人口の合計が合っていない。性別・年齢別認知症高齢者出現率が男女別である必要はないと思う。

妻が認知症。周りの人の協力があり、妻の状態をみんな知っている。介護をしてみても、少しずつ大変さを理解している。地域の関わり合いが非常に大事。

(事務局)

数字の誤差 : 国勢調査の人口に、年齢不詳人口があり3区分別に含まれない人数がある。整理をして、記載をしたい。

男女別グラフ: 男性と女性で平均寿命が異なるため、男女別に表記をした。

(委員長)

グラフに関しては、実際に男女別の年齢構成で、認知症の罹患率が変わってくる。一つの軸に並べて書くよりも、男女別に書かれるグラフのほうが多いため、この記載でも良いかと思う。事務局で検討してほしい。

(委員)

高齢者の社会参加に関して、サークル活動への支援や、老人クラブの活動支援とある。コロナで様々な活動が中止になり、企画していた方々が高齢になった。活動が縮小、減少しているが復活させる方法は？

(事務局)

地区のサロン活動はコロナ禍で活動の自粛、そのまま活動休止に至ったものもあるが、徐々に活動が再開しつつある。社会福祉協議会に業務委託し、活動再開に向けた支援に取り組んでいる。

(委員)

区長も若い世代(50代)が担っており、勤務をしながらの住民支援は厳しい。行政で働きかけ、特にこの計画が始まる時期に一番力を入れ、住民活動を再開させないと交流の場がなくなる気がする。

(委員)

高齢者が増える中、老人クラブが潰れている。リーダーの成り手がいないが、「活動の中核となるリーダーの育成を行う」ことについて、具体策はあるか。

(事務局)

老人クラブやボランティア活動等、様々なリーダー育成事業を社会福祉協議会に委託し、徐々に育成している段階。

(委員)

リーダーとして育成されるのが嫌だから、老人クラブに入らない傾向がある。個々に依頼しても成り手がいない。育成というのは良い話ではないと思う。

(事務局)

育成方法に関しては計画を推進するとき一緒に検討していただきたい。はじめからリーダー育成としてではなく、高齢者が気軽に楽しく参加できるもの、集まれる場所と一緒に作っていききたい。

(委員長)

方針としては育成という形で、アイデアや、金銭的な補助をいただきながら、方法はこれから検討するということになると思うが、このコロナを経て一回休止している組織が再度活動を開始するのは難しい問題だと思う。

(委員)

これはあくまでも施設にも入っている高齢者ではなく、地域で暮らしている方がより良い、今後の社会に向けて希望、夢を持って生活する、そのための施策か？

(委員長)

内容的にはそれが主になっていると解釈している。

(委員)

施設入所者に話を聞き、施設は家族も本人も不安なく生活できる場所だと思う。一方で、施設でも一人一人が、自分らしく生活できることを願っている。

(委員)

事業所の人手不足を痛感。サービスを必要としても、人手がなく、支援事業所を見つけるのに苦労する。アンケートからも、サービス供給量に余裕がないマンパワー不足が見られる。

施設の採用担当をした時、特に短大、養成校に関しては介護職を希望すると、先生が介護職は大変だと提案をしているということを目にした。現に若い職員が非常に少ない。一方で、ヘルパーは65歳以上の方が頑張っている。うまく高齢者の力を取り入れていけないか。シルバー人材センターの役割に期待したい。活用できれば労働力不足が少しでも良い方向となるのではないか。

(委員長)

元気高齢者の活躍の場について、具体的な例はあるか？

(事務局)

シルバー人材センターは昨年度、最も高い収益率を上げた。多くの高齢者に様々な地域の仕事を担っていただいているが、今年度になりシルバー人材センターも人手不足(仕事の依頼はあるが人手が足りない)と聞いている。高齢者施設では、高齢の方が職員として働いている状況を目にする。介護職のなり手がいない現状の中、高齢者に介

護の担い手となっていただくことも大切だが、体力を要する仕事。うまくマッチングできれば良いが、協力はしていきたい。

(委員)

元旦の能登半島地震を受け、地震を心配した相談が何件かあった。災害時の支援体制について「地域の支え合いマップと個別支援計画作成に取り組む」と記載されているが、独居高齢者を把握しても、災害時の具体的な行動、普段からのつながり、協力者の把握等一步踏み込んだ具体的なことが示されていると、支援者としても構想しやすいし、高齢者も安心して暮らせると思う。

(委員長)

非常にトピックスな話題。能登沖の地震も教訓の一つ。委員の発言を踏まえて、この計画に載せられるようなことはあるか？

(事務局)

一人暮らし高齢者の方については、一人暮らし高齢者台帳・要避難者台帳を作成している。そこに個別避難計画を記載するスペースがあるが、実際にはほとんど記載されていない。今後具体的な取り組みを進めながら、各高齢者の個別避難場所、避難方法、避難計画を作っていく。それにより、避難所に来られる方の情報を把握できれば、必要な避難物資や設備等も予想でき、避難所の備蓄状況や人員配置等も含めた避難計画も見直していけると考える。

(委員)

介護人材の不足は本当に大きな課題。採用募集をしても、わずかな問い合わせがある程度。一方で、親の介護をし、その知識を生かしたい、子育てが一段落した等パートタイムで働いてくれる方もいる。

多様な働き方の人たちが「介護って面白い」「介護に魅力がある」と認識していただき、長く働いてもらえるよう、施設として研修に参加してもらい、専門性を高めている。人材の確保や育成に向け、魅力ある職場づくりに力を入れている。

施設では外国人の介護者が働いている。今年、3年間の技能実習が終わり、特定技能に移行し、介護福祉士の国家試験にも挑戦するということで、意欲的に働いてくれている。外国人が介護することに対して世間で賛否あるが、彼らはとても意欲的で、利用者からのクレームや苦情もなく、綺麗な日本語も使え、とても丁寧に仕事をしてくれているのが実際の印象。

ただし、外国人の方を雇うには初期費用がかかる。県では1年間借り上げ住宅の2分の1補助をしてくれる制度がある。諏訪市でも、事業者が介護人材を確保しやすいような、取組や助成金等制度を考えてほしい。

(委員)

人口動態が諏訪市の喫緊の課題。まちづくりをしないと諏訪市が衰退する。若い人が諏訪市に在住する施策がないと、施設にも若い方は就業しない。中途採用をしているが、若い人が年上の人を育成しないといけない。若い人が年下の人を育て、支える世の中にならないと、お年寄りがお年寄りをお世話する社会では将来が不安。

業務が少しでも軽減できるようICT等を取り入れている。今年度からは外国人も採用した。この先ほとんど外国人に看てもらうような施設になっていく。日本人で専門職の力のある人を育てたい気持ちがある。

(委員)

認知症施策の推進について、地域が希薄化し、隣近所や地域で助け合うことが難しくなっている。高齢者の考え方、社会通念も変化する中で、みんなで支え合う体制を作ることは難しい。

認知症施策の推進、早期発見に向けた取組の推進について「認知症を早期発見すること」と読み取ったが、内容は行方不明になった方の早期発見。文言を追加したほうが良い。

災害の個別計画は、BCPの策定が義務付けられているため、うまく利用できると良い。

(委員)

口から食べられなくなると衰弱するため、歯科衛生士を行政で採用して欲しい。災害時にも歯科衛生士は口腔ケアの重要な任務を果たしてくれる。

行政で医師会、歯科医師会、薬剤師会や関係団体の方と災害ボランティア活動の訓練をしてほしい。

(副委員長)

生きがい広場(とちの木ひろば、なかよし広場)は地域に根ざした交流拠点、住民主体であるため、中洲や湖南の住民向けだと思っている。行政が運営支援をして、拠点を増やすという考えがあるか？

(事務局)

生きがいひろばは、20年ぐらい前に地域の方々から「交流拠点がほしい」と要望があり、市で建設をし、地域の団体や地区社協、PTAが運営団体を作り、市の施設を地域の団体で交流しやすい、活用しやすいような形で運営していただいている。他の地区に現在このような施設を新たに建設する計画はない。地区の公民館の活用、地域の通いの場を見出してもらおう等、地域の居場所を作っていただきたい。

(委員長)

この会議は、計画を立てることが目的ではなく、委員が軸になってこれを進行し、振り返る会。役割として、実際に計画が遂行されたのか気に留めることが必要。第7期、8期に課題に挙げたこと、まだやり遂げられていないこと等を教えてほしい。

(事務局)

今年度から地域包括ケア推進会議を始めた。軽度者の事例について、多職種が顔を合わせ、事例の高齢者が自立するための支援方法を話し合う会議。高齢者のごみ捨て、ごみ出し、高齢者の移動手段に関して議題にも挙がり、生活支援の協議体で更に話し合いを始めている。高齢者福祉課以外の担当課も参加し、まちづくり、諏訪市全体として取り組む課題を話し合っている。コロナ禍を経て、多職種が集まることが少なくなった

が、顔を合わせて話し合う場として地域ケア会議や協議体が形を変えて再スタートしたことは一つの変化。

高齢者の支援に関しては、困っている高齢者とそれを支援できそうな人をマッチングし、介護保険以外でも高齢者の生活を支えている。地道なことだが継続したい。

(委員長)

いろいろな課題を皆さんから頂戴した。地域の問題、人材不足という現実在即した問題、これからの諏訪市はどうなるのかという、まちづくりにおける問題、高齢者だけの枠では解決し得ない内容が大きく見て取れる。

この話し合いをもって、「素素案」を「素案」とすることを承認いただけるか？

(賛成多数で承認)

今後の予定について

(事務局)

資料1「パブリックコメントの募集について」に基づき説明

意見募集期間:2月1日から3月1日まで30日間

素案閲覧方法:市役所1階ロビー、豊田、四賀、中洲、湖南の各公民館に素案設置。

諏訪市ホームページに素案を掲示。

提出方法 :意見用紙に記載後、郵送、FAX、メール、市役所へ持参。

4 その他

5 閉会